

# 「関西学院卒業生の集い」開催報告

「関西学院卒業生の集い」実行委員会

尾久土 治（昭和 57 年社卒）

昭和 63 年に設立された KGR リアルターズクラブが、昨年 20 周年を迎えるにあたり「何か記念になることを・・・」との提案で動き出した「関西学院卒業生の集い」が 1 年半の準備期間を経て、9 月 3 日（木曜）に大阪の象徴的建造物である中之島公会堂において開催されました。



このイベントは KGR C の他に法曹弦月会、KG - MBA マネージメント研究会、関西学院会計人会、関西学院経営者研究フォーラムの同窓 4 団体を共催者に加え、後援には学校法人関西学院、関西学院同窓会、また関西学院大学総局放送局 (KGB) の協力という「オール KG 体制」を目指して取り組んできました。



午後2時から3階にある中集会室で始まった最初のイベントは学生たちが取り組む地域再生の社会連携、ボランティア活動やベンチャー企業育成活動を紹介するワークショップ。平日の午後からという時間帯から集客面では少し寂しい結果になりましたが、これらのテーマに取り組む姿勢は、雀荘通いに明け暮れていた私の学生時代を思い浮かべると、雲泥の差でした。彼らはそれぞれの活動の中で、私たち同窓生への理解と協力を真剣に求めているのがよくわかりました。



午後4時からの法曹弦月会主催のワークショップでは、大阪においても始まったばかりで国民の関心も高い裁判員制度を、ビデオ映像を見たあと解説していただきました。講師はK G R C 勉強会でも担当いただいた足立毅弁護士。また、別の同窓弁護士による法律相談のできるブースも設けていただきましたが、こちらは事前PRを行わなかったため、相談事例はなかったようです。しかし、これをきっかけに弁護士や裁判といった一般の方には敷居の高い世界が少し身近に感じられたのは、私だけではなかったようです。



そして午後5時15分からは本日のメインイベントが「関西学院卒業生の集いシンポジウム」です。司会者は笑福亭仁鶴師匠主演の人気番組「NHKの生活笑百貨」で顧問弁護士として活躍の美人弁護士小島幸保さん（平成7年法卒）です。



最初に本イベント実行委員長を務める松吉三郎KGR C 会長による卒業生の「さらなるつながり」を目指した開会趣旨説明が行われました。引き続き来賓として大橋太郎同窓会長、杉原左右一学長のご挨拶をいただきました。そして待ちに待ったパネルディスカッション。





「卒業生としての思い」をそれぞれの立場で語っていただくパネリストは、啓明学院校長の尾崎八郎校長(昭和38年文卒)、ミズノ株式会社社長の水野明人社長(昭和51年商卒)、3月まで兵庫県弁護士会会長を務められた正木康子弁護士、上場時にみずほ証券の誤発注で一躍有名になった関学卒ベンチャー星のジェイコム株式会社岡本泰彦社長という豪華メンバーです。今回のパネリスト選定にあたり実行委員会では、単に有名な同窓を集めるのではなく、その人や企業の考え方や母校への思いを重視しました。そしてそのパネリスト取りまとめるコーディネーターは産学連携推進担当の寺地孝之商学部教授です。



母校に対する思い出や求めるものそして同窓として私たちが出来ることなど、各パネリストのみなさんが思い思いの意見を述べられていました。開演時間がサラリーマンには参加し辛い時間だったこともあり、810名収容の大ホールを満員にすることはできませんでしたが、現役学生を含めて終了前には300名近い人が大変興味を持って聞き入っていました。パネルディスカッションはその運営が非常に難しいといわれますが、みなさんお忙しい中、

集まっていた行きったりリハーサルで、それぞれの人となりを理解いただいていたことと、寺地先生の司会進行が成功の要因だったと思います。



シンポジウムが終わり、その興奮が冷めやまない中、参加者の多くは引き続き3階の中集会室で行われるパーティー会場へ。エレベーターの収容人員が少ないため、ほとんどの方は長い階段を上られることとなりましたが、心配していたトラブルもなく7時からの開催は時間通りのスタートを切ることができました。最初は最近の関学の様子やワークショップに参加する学生の活動のビデオ紹介でした。その中には卒業生である角淳一さんからの卒業生にエールを送る（喝を入れる？）ビデオメッセージが入っていました。実は裏話ですが、その角淳一さんを毎日放送を通じて繋いでいただいたのが、エフエム802専属で西日本を代表するDJのヒロ寺平さんでした。（名前をご存じない方もそのトークを聞けば、

その声をきっとどこかでお聞きになったことがあるのではないのでしょうか。) ヒロ寺平さんは私たちが趣旨説明にお伺いした時に、私たちのこの企画に対する思いを熱心にお聞きいただき、その繋ぎ役を引き受けていただきました。



そしてこの時間からの参加者はますます増えて、およそ430名に膨れ上がっていました。大橋太郎同窓会長の乾杯あとは、会場で久しぶりに出会った同期とお酒を酌み交わす方や、学生との懇親を図る方など、あちこちで見知らぬ人たちの輪ができるなど、普段開催される他の同窓会とは一味違った盛り上がりを見せていました。



開演開始から1時間ほど経った後、いよいよ特別出演を快く引き受けてくれたミュージシャン、オレンジペコー(ナガシマトモコ・藤本一馬)の登場です。彼らは軽音楽部で出会い、ジャズを始めとした様々なワールドミュージックを独自に昇華したスタイルで自作自演。想像以上だったのが、ナガシマトモコさんの歌声が音楽ホールでもないこの会場に

ものすごくよくマッチしたことです。約 20 分間の演奏の後、クライマックスは関学応援団長によるエールと参加者全員による校歌「空の翼」の大合唱です。今年「空の翼」は甲子園球場でも歌われたため、多くの同窓が特別な思いを持って歌われたのではないのでしょうか。



KGリアルターズクラブが中心となって卒業生や母校の「さらなるつながり」を目指して、その起爆剤となるべく企画した今回の「卒業生の集い」。その実行委員会のメンバーとして関わらせていただいて1年半。今日までに多くの壁にぶつかりながらも、KGリアルターズのメンバーや同窓のみなさんの助けを借りながら準備してきました。苦勞もありましたが、帰路に向かわれる参加者の笑顔を見るとその疲れも吹っ飛びました。

会員のみなさん、多くの同窓生の方々、そして学生や大学のみなさん・・・本当にありがとうございました。そして、この「つながり」が今後も広がっていくことに、これからもご協力をお願いします。